

稲発酵粗飼料出前研修会の活動

中央参集型の飼料イネ情報交換会と合わせて、平成16年度から地域農業指導者と対話し、耕種と畜産現場を訪問するアウトリーチ(出前)活動の1つとして「稲発酵粗飼料出前研修会」を始めました。中央農業総合研究センター、作物研究所、各地域農業研究センターの協力を得て、複数の農研機構研究職員が出向き、事前に聴取した開催地の技術問題について研修を行うものです。



飼料イネ利用のTMRセンターで懇談(鳥取県)

平成16年5月から鳥取県、埼玉県、秋田県、栃木県、徳島県、静岡県において、6回の研修会を実施し、合計360余名の生産者、現地指導者の方々が参加されました。研修内容は飼料イネ新品種、サイレージ調製、栽培技術、乳牛・肉牛への給与技術から経営まで幅広い内容で行っています。研修会と同時に栽培・給与の現地視察を行い、耕種・畜産の生産者との懇談、各県普及指導者ならびに開催地の地域農研センター総合研究部と連携し、技術問題を解決しています。

これまでに実施した出前研修会を通して得られた成果として、①農研機構研究職員が現地に出向くことによって、県研究・普及機関等との連携が深まり、稲発酵粗飼料技術に関して、迅速かつ対話型の問題解決ができる、②地域農業が求める研究展開方向(ブラニチ研究、地域農業確立総合研究等)および成果の普及方法の抽出、③農研機構研究職員が現場に出向くことが待たれていることなどがあげられます。畜産現場でのバーン・ミーティングとともに、水田でのフィールド・ミーティングを通して品種育成から給与技術等の要望を聴くことは有意義であり、今後も現地からの研修要望に耳を傾けて、出前研修の機会をできる限り作っていく予定です。

(家畜生産管理部 吉田宣夫)



飼料イネ出前研修会(秋田市)



直播栽培ほ場の視察(横手市)